

出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

今 期（2013年4－6月）の 概 要

調査期間 平成25年7月1日（月）～7月16日（火）

対象企業 調査対象企業数30社 回答率29社（回答率96.7%）
内訳：建設業3社、製造業7社、卸売業2社、小売業9社、サービス業8社

概 況

○全業種の今期業況DIをみると、前期比で△24.1（前期調査△29.6）とマイナス幅がやや縮小しましたが、前年同期比では△27.6（前期調査△17.9）と4期ぶりにマイナス幅が拡大しています。来期業況見通しDIでも、今期比で△34.5（前期調査△25.9）と3期ぶりの悪化予測となりました。

○全業種の今期売上DIは、前期比で△6.9（前期調査△30.0）と、建設業0.0、製造業14.3、卸売業100.0、サービス業12.5と4業種がプラスを示したことから全体が大きく改善しました。前年同期比でも建設業66.7、卸売業100.0、サービス業12.5が牽引したことにより、△13.8（前期調査△31.0）と2期連続でマイナス幅が縮小しています。ただ、来期売上見通しDIは今期の好調の反動を懸念するか、今期比で△46.4（前期調査△31.0）と売上ダウンが見込まれています。

業種別景況調査の主要DI

1、建 設 業

・今期業況DIが、前期比で△66.7（前期調査25.0）と大きく悪化。前年同期比でも0.0（前期調査25.0）まで下降しました。今期売上DIも

前期比で0.0（前期調査25.0）とゼロ水準まで下向きましたが、前年同期比では66.7（前期調査50.0）と高い水準を維持しています。「猛暑によりエアコン関係の仕事が好調」という企業もあれば、「円安により管材料等が値上がりしてきた」と不安視している企業も見受けられました。

- ・来期業況見通しDIは今期比で△66.7（前期調査△50.0）、売上見通しDIも△66.7（前期調査△50.0）と、いずれも2期連続の悪化見通しとなっています。

2、製造業

- ・今期業況DIが、前期比△14.3（前期調査△50.0）とマイナス幅が大きく縮小し、前年同期比でも△28.6（前期調査△33.3）とわずかながら上向きの動きを示しています。売上DIは前期比14.3（前期調査△42.9）と一気にプラス回復しました。前年同期比でも△42.9（前期調査△71.4）と、マイナス幅が縮小しました。
- ・来期業況見通しDIは、今期比で△14.3（前期調査△33.3）と若干の改善が見込まれていますが、売上見通しDIでは今期比で△42.9（前期調査△42.9）と、低い同水準で推移する見通しです。電子業界は厳しい状態にあるようです。

3、卸売業

- ・今期業況DIが、前期比で50.0（前期調査50.0）と同水準で推移。前年同期比では100.0（前期調査50.0）とさらなる回復を示しました。売上DIでは前期比で100.0（前回調査100.0）、前年同期比でも100.0（前期調査100.0）と、いずれも2期連続で好調を堅持しています。出雲大社大遷宮の恩恵を受けた企業が牽引した結果のようです。
- ・来期業況見通しDIは、今期比では△50.0（前期調査0.0）と、3期ぶりに悪化することが予測されていますが、売上見通しDIでは今期比で0.0（前期調査△50.0）と持ち直しに期待が高まっています。

4、小売業

- ・今期業況DIが、前期比で△55.6（前期調査△37.5）と再び減退。前年同期比にいたっては△77.8（前期調査△22.2）と、マイナス幅が急激に拡大しました。これで2期連続のダウンです。売上DIは、前期比で△66.7（前期調査△33.3）、前年同期比でも△66.7（前期調査△50.0）と、こちらも2期連続で悪化となっています。
- ・来期業況見通しDIは、今期比で△55.6（前期調査△25.0）、売上見通しDIも△66.7（前期調査△37.5）と水準がさらに下がるという厳しい見方がなされています。

5、サービス業

- ・ 今期業況 DI が、前期比で 0.0（前期調査△57.1）、前年同期比でも△12.5（前期調査△42.9）と、再び改善しています。売上 DI は前期比で 12.5（前期調査△75.0）、前年同期比も 12.5（前期調査△50.0）と、ともに一気にプラスへ急上昇するなど好調でした。出雲大社大遷宮による観光客の増加が大きな要因となったようです。
- ・ 来期業況見通し DI は、今期比でほぼ同水準の△12.5（前期調査△14.3）で推移する見込みですが、来期売上見通し DI では今期比△25.0（前期調査 0.0）と、今期の反動が懸念されています。

設備投資動向

1、今期設備投資

全業種	設備投資を実施した事業所の割合は 31.3%（前期調査 28.6%）で、「機械・備品」「車両運搬具」への投資が同率で並んでいます。
建設業	実施割合が 75.0%で、「機械・備品」「車両運搬具」「OA機器」が同率で並んでいます。
製造業	実施割合が 28.6%で、「機械・備品」「車両運搬具」が同率で並んでいます。
卸売業	実施はありませんでした。
小売業	実施割合が 22.2%で、「機械・備品」「車両運搬具」が同率で並んでいます。
サービス業	実施割合が 30.0%で、「建物」「機械・備品」「車両運搬具」が同率で並んでいます。

2、来期設備投資

全業種	設備投資を計画している事業所の割合は36.7%（前期調査24.2%）で、「建物」「機械・備品」への投資の割合が同率で並んでいます。
建設業	設備投資を計画している企業はありませんでした。
製造業	設備投資を計画している割合が62.5%で、「機械・備品」の割合が最も高くなっています。
卸売業	設備投資を計画している企業はありませんでした。
小売業	設備投資を計画している割合が44.4%で、「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。
サービス業	設備投資を計画している割合が44.4%で、「建物」の割合が最も高くなっています。

経営上の問題点

全業種	第1位は「需要の停滞、受注減少」で、48.1%でした。第2位は「単価の低下・上昇難」、第3位は「店舗・機械・備品等設備の老朽化」でした。
建設業	第1位が「需要の停滞、受注減少」で、66.7%でした。
製造業	第1位が「需要の停滞、受注減少」で、66.7%でした。「従業員の確保難」をあげる企業もありました。
卸売業	第1位が「新規参入業者の増加」で、50.0%でした。

小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、44.4%でした。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、42.9%となっています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。